



三月(大) 弥生 張宿

三月六日啓蟄の節より
月命丁卯七赤金星の月
暗剣殺西の方

旧二月大
三月小

日	曜日	干支	九星	行	事	旧暦	六輝	中段	共宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
14日	金	きのえさる	九紫	十方くれ入り		十四	先負	ひらく	危	五む日	5.30 18.01	5.31 18.01	5.07 17.30	11.21 23.41
13日	木	みづのえさる	八白	奈良春日大社祭		十三	先勝	おさん	虚	母倉	5.32 18.35	4.54 16.23	4.40 16.07	10.45 23.05
12日	水	みづのえさる	七赤	奈良東大寺二月堂お水取り、旧初午、官城岩沼竹駒神社初午祭		十二	先勝	たいら	参	神よし	5.33 18.00	4.15 15.15	4.11 15.21	10.06 22.27
11日	火	かのと	六白	望二時〇八分		十一	赤口	みづ	背	十し	5.34 17.59	3.36 15.15	3.40 14.23	9.25 20.57
10日	月	かのと	五黄	塩竈神社帆手祭、不成就日		十	大安	のぞく	畢	●	5.35 17.57	2.57 14.07	3.05 12.50	8.38 19.57
9日	日	つちのとう	四緑	茨城鹿島神宮祭頭祭		九	佛滅	たつ	鼎	大みょう	5.37 17.57	2.08 13.00	2.17 12.50	7.33 18.36
8日	土	つちのえとら	三碧	上弦二時二分、国際婦人デー、天しゃ、旧ごと始め、旧針供養、小つち三隣亡、一粒万倍日		八	先負	とづ	胃	よろづ	5.40 17.56	1.18 10.51	1.18 10.51	6.39 18.36
7日	金	ひのと	二黒	消防記念日		七	友引	ひらく	婁	大みょう	5.41 17.55	0.25 9.53	8.08 22.26	2.32 15.16
6日	木	ひのえさる	一白	啓蟄 一時〇二分		六	大安	あやぶ	奎	母倉	5.43 17.54	0.25 9.53	7.32 21.05	1.54 14.20
5日	水	きのえさる	九紫	春の全国火災予防運動(1日〜7日)、三隣亡		五	赤口	なる	壁	●	5.44 17.53	0.25 9.53	7.02 20.09	1.21 13.39
4日	火	きのえさる	八白	鹿兒島霧島神宮お田植祭		四	佛滅	あやぶ	室	●	5.45 17.52	0.25 9.53	6.35 19.24	0.51 13.04
3日	月	みづのえさる	七赤	ひな祭、耳の日、新潟浦佐押合祭		三	赤口	みづ	危	十し	5.47 17.52	0.25 9.53	6.10 18.44	0.21 12.32
2日	日	みづのえさる	六白	岐阜美江寺祭、二日灸、不成就日		二	先負	とづ	参	神よし	5.48 17.51	0.25 9.53	5.45 17.34	11.33 23.51
1日	土	かのと	五黄	奈良東大寺二月堂修二会 旧二月大		一	大安	あやぶ	星	五む日	5.50 17.50	0.25 9.53	5.22 17.34	11.04 23.21

春らしい陽気の日があると思うと、急に真冬に立ち返ったような寒い日もある。月が気温だけでなく、天候も激しい変わり方をする。関西では、十二日の奈良のお水取りが終わらないと春がやって来ない、と言ひ伝えられ、一方、暑さ寒さも彼岸までと言ふことわざもある。物が語っているようである。

【冠】三月三日は「桃の節句」である。もともと「上の節句」といつたもので、これが桃の節句や、雛の節句といわれるようになったのは江戸中期以降らしく、現在のようたは近年になってからである。女の子が初めて迎える桃の節句を「初節句」といひ、雛人形を飾ってその子の将来を祝う。内裏雛(だいりひな)が、雛人形の典型になったのは、幼女が成長して、よい結婚生活を送るように願う心の現れであろう。

日	曜日	干支	九星	行	事	旧暦	六輝	中段	共宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
31日	月	かのと	八白	朔三時四五分、不成就日		十五	佛滅	あやぶ	柳	ぶく日	5.30 18.01	5.31 18.01	5.07 17.30	11.21 23.41
30日	日	かのと	七赤	奈良薬師寺花会式(4月5日迄)		十四	先負	おさん	虚	母倉	5.32 18.35	4.54 16.23	4.40 16.07	10.45 23.05
29日	土	つちのとう	六白	京都裏千家利休忌、一粒万倍日		十三	赤口	なる	斗	神よし	5.33 18.00	4.15 15.15	4.11 15.21	10.06 22.27
28日	金	つちのえさる	五黄	京都裏千家利休忌、一粒万倍日		十二	大安	あやぶ	牛	●	5.34 17.59	3.36 15.15	3.40 14.23	9.25 20.57
27日	木	ひのと	四緑	京都表千家利休忌、一粒万倍日		十一	佛滅	あやぶ	箕	大みょう	5.35 17.57	2.08 13.00	3.05 12.50	8.38 19.57
26日	水	きのえさる	三碧	不成就日		十	赤口	なる	斗	神よし	5.37 17.57	1.18 10.51	2.17 12.50	7.33 18.36
25日	火	きのえさる	二黒	電気記念日		九	友引	さだん	尾	大みょう	5.38 17.56	0.25 9.53	0.39 10.27	6.39 18.36
24日	月	きのえさる	一白	下弦一〇時四六分、彼岸明け、旧二の午		八	先勝	たいら	心	神よし	5.40 17.56	0.25 9.53	8.58 —	8.30 16.45
23日	日	みづのえさる	九紫	世界気象デー、天一天上		七	赤口	みづ	房	十し	5.41 17.55	0.25 9.53	8.08 22.26	2.32 15.16
22日	土	みづのえさる	八白	NHK放送記念日、奈良法隆寺会式		六	大安	のぞく	氏	●	5.43 17.54	0.25 9.53	7.32 21.05	1.54 14.20
21日	金	かのと	七赤	春分の日、春分一時五七分、彼岸中日		五	佛滅	たつ	亢	ぶく日	5.44 17.53	0.25 9.53	7.02 20.09	1.21 13.39
20日	木	かのと	六白	上野動物園開園記念日、三隣亡、一粒万倍日		四	先負	とづ	角	きこ	5.45 17.52	0.25 9.53	6.35 19.24	0.51 13.04
19日	水	つちのとう	五黄			三	友引	ひらく	軫	月とく	5.47 17.52	0.25 9.53	6.10 18.44	0.21 12.32
18日	火	つちのえさる	四緑	彼岸入り、社日、不成就日、石川気多大社おいで祭(23日迄)		二	先勝	おさん	翼	母倉	5.48 17.51	0.25 9.53	5.45 17.34	11.33 23.51
17日	月	ひのと	三碧	望二時〇八分		一	赤口	なる	張	大みょう	5.50 17.50	0.25 9.53	5.22 17.34	11.04 23.21
16日	日	ひのえさる	二黒	西宮広田神社例祭		十五	大安	あやぶ	星	五む日	5.51 17.49	0.25 9.53	5.00 17.01	10.35 22.50
15日	土	きのえさる	一白	京都嵯峨釈迦堂お松明、旧ねはん会、近江八幡左義長祭、一粒万倍日		十四	佛滅	あやぶ	柳	ぶく日	5.53 17.48	0.25 9.53	4.38 16.29	10.35 22.50

【婚】婚礼の最も多い月のひとつである。ことに大安の日となれば、式場はスケジューリングが完全にうまくいっているという。誰しもがよい日を選ぶのは当然であるが、婚礼は本人同士の誓いを中心に近親の承認と祝福を得れば十分。結婚披露宴は、大宴を張るよりも時間内にムードを盛り上げるよう工夫しよう。

【葬】彼岸入りから彼岸明けまでの「春分」を中心にした七日間は春のお彼岸である。真西に太陽が没するこの期間、西方に浄土があると信じているから、無欲悟道の彼岸の域に一番近い日とされ、死者の冥福を祈り、仏供養、墓参などをする。

【祭】奈良東大寺の二月堂では、十三日未明に堂前の若狭井の水を汲んで加持の行なう。これは厳しい戒律のもとに千数百年にわたって続けられているが、国有数の重要行事である。春分、秋分にも近いつちのえの日を「社日」といひ、農耕の神を祭る。社日の社(示)と「土」から成り立ち、土の神の意味である。